

サンワ・リノテックがお届けするお得な記事満載の情報紙。  
きっとお役に立ちます。

ユ一ザ一様訪問



株式会社HAND&FOOT  
代表取締役  
中村 浩之氏

当社恒例の「グローブバッグの講習会」で、毎回講師を務めているHAND & FOOT(神奈川県)の中村浩之社長は、12年前に米軍基地のアスベスト処理を始めました。アメリカEPA(環境保護局)の資格が必要なため最初ワーカー(作業)の資格を取得。現在はスーパーバイザー(監督者)の資格を取り現場の責任者として活躍されています。同講習会では日本の講習会と違い実地体験が必須で、その経験が現場で大変役立っているということです。

**司会** 中村社長のプロフィール、アスベストの仕事を始められた経緯についてどうぞ。

**中村** 1974年6月8日生まれで38歳になりました。アスベストの仕事を始めたきっかけはかなり唐突なものでした。この業界に入る前は広告代理店で企画、営業をやっていました。

社会人になる前にアメリカに留学し、英語はある程度使えるようになりました。その後、建築現場で働いたり警備員をやったりして、現場の仕事を体験しました。ある時白羽の矢というか仕事の声がかかりました。米軍基地でアスベスト処理の仕事があり、その仕事を始めたいが、統括する人間を探しているので協力してくれないかと言われたのです。新しい会社に入社したばかりでしたのでできないと断ったのですが、もしやるのだったら会社を辞めるしかないと考えました。そこでアスベストとは何かを自分なりに調べました。

アスベストは人体に悪影響があることがわかりました。仕事の内容は、タイベックの保護服を着て、マスクを被って、有害物のアスベストを取り除くことです。正義の味方のような仕事だと思いました。私の生き方のアイデンティティは正義です。また生き方のイズムはかつて良く活躍するのではなく、一歩引いた存在ですが影響力があるナンバー2的な存在が、良いと昔から思っていました。アスベスト処理の仕事は、悪者を退治する面白そうな仕事だと気に入りました。それでやってみようと決断し、会社を辞めてこの業界に飛び込みました。

仕事の紹介者の話では、米軍基地で住宅を350棟ほど改修する。それに伴う仕事で、アスベスト関係だけでもかなりの量の仕事があるということでした。当時、アスベスト処理の仕事は米軍基地で結構あるといわれ、やりがいがありそうでした。仕事をするにはまずアメリカEPA(環境保護庁)の資格を取らなければいけません。

最初、スーパーバイザー(監督者)の資格をいきなり取るかと言われたのですが、きっちりワーカー(作業)で経験を積みたかったのでワーカーの資格を選びました。

米軍に限らず大きな仕事はすぐには出ません。資格を取って

から半年くらい何も仕事がない状態が続きました。突然仕事を始めてくれということになったのですが、作業員がいなくなっていました。EPAの資格を持っている作業員は私しかいません。本来は5人で3~4日かけてやる所を、私1人で1週間かけてなんとか1棟終わらせました。その後EPAの講習を受けた者が入ってきたので何とか仕事をこなせるようになりました。横須賀を中心に米軍基地で仕事をやりました。次第に住宅だけでなく、基地内の工場のパイプやスレート、小さな吹き付けの処理もやるようになりました。

その後、11年ほど前のことですが、大変な現場があるということでワーカーとして沖縄に応援に行きました。日本のアスベスト処理の現状は、アメリカの考えと乖離(かいり)しているところがあって、アスベストをよく理解していない日本人が上に立つと、トップダウンの指示が中々下に伝わりません。沖縄の現場では監理する人がいい加減だったため、大変な状況になっていました。たまたまその時、佐川社長にお会いしました。

**司会** アスベスト処理はアメリカと日本ではギャップがあるのですか。

**中村** アメリカと日本の大きな差は何かというと、インテリジェンスだと思います。現場をどう守ればいいのか。どうやってアスベストと付き合っていくといいのかという情報の質と量が初期の段階から違います。10年以上やっていますが常にそれを感じます。

**司会** アメリカでのグローブバッグの施工について説明してください。

**中村** 「施工をするにはアメリカのEPAの資格を取らなければいけません。必ず受けなければいけない項目に実地訓練があることが大きな特長です。体験することによって、実際の仕事で生かれます。私は、今日から現場に入れと言われた時に、なぜ1人でできたかということ、それはグローブバッグの実地訓練を受けたからだと思います。実地訓練をやることによって、最低限こういうことをやればいいのかということがわかりました。実地訓練の特長は、座学だけでなくマスクの付け方、メンテナンスの仕方などを重視していることです。受講者にきっちり体験してもらっています。何かあった場合、作業員も仕事を頼む側も知らないでは済まされません。

**司会** 資格の取り方は日米では異なるのですか。

**中村** 日本ではアスベスト処理をする人に対して、半日の特別教育がある。作業主任者の講習は2日間の座学だけで、1度取得したら更新しなく



(裏面に続く)

(表面より)とも良い。日本の資格の取らせ方には問題があると思います。受講者に身をもって疑似体験をさせることが非常に大切です。

アメリカでは座学が3日間、実地訓練が1日です。日本でやる時は通訳を入れて5日間になります。日本の講習との差をすごく感じます。当社では最初作業にはマスクを付けさせて、どうやって管理するのかを聞いて、再度レビューし、トレーニングしてから現場に入ってもらっています。

EPAの資格は、1回講習を受けたらそれでおしまいではなく、毎年更新します。私は現在スーパーバイザーですが、ワーカーには負けません。うかうかできないので常に情報は更新していかなければいけません。そういう非常にいい効果が出ています。それが日本のアスベスト作業者とアメリカの作業者の大きな違いを生んでいるのだと思います。

EPAのアスベストの資格は、作業員であるワーカー、現場の監督者であるスーパーバイザー、アスベスト処理の企画・計画を練るデザイナー、アスベストがどこにあるか調査するビルディング・インスペクター、訴訟にかかわる費用の問題や、工事をする人にプランニングして伝えるマネジメント・プランナーというように細かく分かれています。

これらの資格を毎年、あるいは定期的に更新しなければいけません。組織はピラミッド型になっています。第三者機関でチェックして作業を進めていく仕組みがEPAの資格の中に全て網羅されています。

現場でもっとも重要視されるのがスーパーバイザーです。その能力によって作業のクオリティが決まります。スーパーバイザーは現場の頭脳として重要なポジションです。現場の状況、法律、やらなければいけない方法がよくわかっていないと工事全体の収拾がつかなくなってしまう。トップダウンで指示を出す役割を担っています。

**司会** グローブバックセミナーでの留意点等がありましたらお願いします。

**中村** 佐川社長に依頼されてグローブバックセミナーを行っています。私は一貫して疑似体験の重要性を強調しています。セミナーでうるさく言っているのは4要素(湿潤、正しい隔離、正しい換気、丁寧に扱う)です。これはアメリカのテキストの中から抽出し、日本向けに書き直したものです。日本の資格を取る時にこの4要素を教えているところはどこにもありません。

また、日本では、何でそうしなければいけないかを説明していません。マスクをつけなければいけない、タイベックを着なければいけない、シートを張らなければいけない、きちんと片づけなければいけないことを知っています。しかしなぜそうなのかを皆知りません。プロとして理由や理屈を知ることとはとても重要です。

例えば負圧機が、容量計算的に合っているのにうまく働かないという現場があります。負圧機の向きを変えるだけで効く場合があります。そういう知識は日本では全く教えてもらえません。

アスベスト除去作業中に必要であれば、アメリカの場合養



グローブバック講習会

生を破いてもいいのです。負圧がかかりすぎて養生が落ちる場合があるからです。その場合、養生に穴を開けエアチャンバーを付けて負圧をコントロールさせます。そして穴を開けたことをきちんと明記しておきます。それがテキストにきちんと書かれています。

**司会** 日本のアスベスト処理に対する教育については。

**中村** もっときちんとした教育の啓蒙が必要です。アスベストの作業をやっている人達は大変です。私はそれを実際経験してきました。彼らは現場の中で非常に苦しい思いをしています。毎日工程を進めなければいけないので黙々とやっています。日本のアスベスト業界の現状は私の理想とは全然違います。それは私の正義に反します。私は子供に職業を聞かれたら、アスベスト屋さんだと胸を張って答えています。常々現在の状況を変えていきたいと思っています。アメリカの場合、ワーカーはプライドを持ってやっています。日本でもプライドやロマンを持ちながらやるよう教育しています。

佐川社長からグローブバックの講師としてやってほしいと言われた時には、本当に僕でいいのかと思いました。逆にこんなチャンスはないとも思いました。僕で良ければやらせて下さいと一生懸命にやってきました。講習会では、グローブバックの存在意義をきちんと伝えていこうと考えています。そうすることでグローブバックがもっと一般的になっていくでしょう。理想としてはこのセミナーがいつの日かなくなって、その代り作業主任者資格を取る時に、必ず受けなければいけないカリキュラムになることが最大の目的です。

**司会** どうもありがとうございました。

## 編集後記

グローブバック第6回目のセミナーを終えたばかりの中村先生に遅まきながら、インタビューをいたしました。先生は、自らEPAスーパーバイザーの資格を持ちプロとして誇りを持って現役でお仕事をされています。アメリカEPA(環境保護局)の資格取得に対するお話やアスベスト処理に関する、アメリカと日本の教育の差、教育のあり方毎回グローブバックセミナーで実施している疑似体験でのアスベスト処理に欠かせない4要素(湿潤、正しい隔離、正しい換気、丁寧に扱う)等、現場重視のお話を伺うことが出来ました。

各地区でのグローブバックセミナーを企画しております、ご案内致しますので、ぜひ関係各位様とご参加下さい。(文責: 寺嶋)

### 発行

作業現場の快適のために——  
レンタル、販売から工事施工まで

**アスベスト サンワ** で検索できます  
**Sanwa Renotech** 〒551-0033 大阪市大正区北恩加島1丁目17番4号  
 TEL06(6551)0024 FAX06(6554)1057  
**サンワ・リノテック株式会社** 東京営業所 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-16-2-702  
 www.sanwa-renotech.com TEL03(6912)8292 FAX03(6912)8293